平成１８年度
我が国の伝統文化を尊重する教育に関する実践モデル事業報告書

ー 第１年次 ー

研　究　課　題

文化としての繊維を学び，豊かな心をはぐくむ教育の取り組み
～ 繊維実習を通して，ふるさとの伝統文化を理解する ～

石 川 県 立 工 業 高 等 学 校

〒920-0964　金沢市本多町2丁目3番6号
TEL(076)261-7156　FAX(076)234-8008

１　はじめに

日本には古くから気候風土に適した繊維技術が発達し，各地に様々な伝統工芸品が生まれ，染織文化として継承されてきた。しかし，工業技術の発達により伝統的な技法や手作業による伝統工芸品は急速に失われてきた。

本研究は伝統的な繊維実習を通じて，繊維の基礎・基本となる知識や技能を習得しながら，我が国に伝わる伝統文化について認識を深めるとともに，豊かな心をはぐくむための学習計画や指導法等について実践研究したものである。

石川県は古くから絹織物や化合繊織物の産地として栄え，高い技術力と生産量から繊維王国と呼ばれてきた。また，伝統工芸の盛んな地域としても知られ，加賀友禅に代表される伝統工芸品の数々は，時代を経ても色あせることなく人々に愛され，多くの関係者の努力により今日まで脈々と受け継がれてきた。

本実践を通して，地域の文化と産業の発展に貢献できる人材が育つことを願っている。

２　研究の概要

２－１　研究主題

「文化としての繊維を学び，豊かな心をはぐくむ教育の取り組み」

～ 繊維実習を通して，ふるさとの伝統文化を理解する ～

２－２　研究の背景

本事業は,「学校教育において児童生徒が我が国に伝わる伝統や文化にふれる機会を充実することにより，我が国の伝統や文化への関心や理解を深めるとともに，それらを大切にしようとする態度を育て，豊かに生きる力をはぐくむことに資する」という趣旨の下に，平成１８年４月，国立教育政策研究所より認定されたのもである。

本校は金沢市の中心部に位置し，明治２０年(1887年)，石川の伝統産業の担い手を育成する目的で「金沢区工業学校」として兼六園の中に創設された。以来，１２０年の歴史を誇る国内でも最も伝統のある工業高等学校である。時代の変化に伴い幾多の変遷を経ながら，現在は機械システム科（２クラス)，電気科，電子情報科，材料化学科，工芸科，テキスタイル工学科，デザイン科の７学科８クラスを設置している。本報告はテキスタイル工学科において実践した平成１８年度の取り組みをまとめたものである。

テキスタイル工学科では, ①ファッションとしての繊維を学ぶ, ②素材としての繊維を学ぶ, ③文化としての繊維を学ぶ，の３つを学習の基盤として掲げ，石川県内で唯一の繊維系学科として地元のニーズに応えられる人材の育成を目標としてきた。③に掲げた「文化としての繊維を学ぶ」こそが，まさに本事業のねらいとするところであり，本校において長年に渡り取り組んできた学習内容を精選し，本事業の趣旨の下に体系化した。

２－３　研究のねらい

機織り，草木染，組紐などの繊維実習を通して，繊維の基礎・基本となる知識や技能を習得しながら，伝統産業として継承され，地域や暮らしに根ざした繊維の文化について理解を深めるとともに，豊かな心をはぐくむことにある。

３　研究の取組概要

３－１　学習の体系化

「文化としての繊維」について学ぶことの意義を明確にし，繊維の伝統的な技法に触れながら，効果的に繊維の知識や技術が習得できるよう学習内容を系統立てた（表１）。

表１　学年ごとの学習内容

（学年）	（内容）	（教科，等）
第１学年	繊維文化の歴史と伝統を学ぶ	テキスタイル材料，現場見学
第２学年	伝統的な手法による「糸」や「布」の製作	実習
第３学年	創意工夫しながら独自の発想によるものづくり	課題研究

第１学年で繊維の性質や文化・歴史について学習する。特に地元石川に伝わる伝統の染織文化として，布地をつくる「牛首紬」と「能登上布」，染めや刺繍で布地を飾る「加賀友禅」と「加賀繍」があることを学び，ふるさとに伝わる伝統文化について，『ふるさと石川』のテキストを参考に調べ学習する[1)]。また，地元の資料館を見学することにより，日頃の学習について理解を深め，伝統文化を理解し尊重する心を育成する。

今年度は１年生４１名が１１月に白山市白峰村にある白山工房を訪問し，伝統織物「牛首紬」の資料や作業工程を見学した。生徒たちは伝統的な繊維技術が今日まで伝承されてきたことに驚きと感動を受け，伝統を継承することの大切さやすばらしさを感じ取ることができた。また，日頃の学習を身近に感じることができ，座学では得られない成果があった。見学した生徒の感想（原文のまま）を以下に示す。

図１　牛首紬見学

・白山工房は，蚕から布を作るところを見て，１つ１つ大変な作業だと思いました。テキスタイル材料の授業で習って少し知っていることがあったけど，それを間近で見ることができたので，今まで授業で習っていたことをとても納得できて良かったです。

・白山工房では，昔から使われている機織り機で製織をしていて，すごく伝統的な感じがした。昔から続けられているこの仕事の伝統を引き継いでいるなんてすごいと思った。繭から織物ができるなんて実際に見たことがなかったから実感がなかったけれど，実際の作

業や道具を間近で見れたから良かった。
・白山工房はすごくたのしかった。繭を手作業で１つ１つ紡ぐのはとても大変だろうと思った。昔ながらの方法ですごく感動した。草木染めもきれいだった。実習で早く染色をしたいと思いました。

第２学年では，伝統的な手法による「糸」や「布」の製作を実習する。「羊毛からの手紡ぎの糸」や「玉繭からの生糸の製糸」，「組紐」，「卓上手機による手織りの布の製作」などを行った。これらの実習を通して，繊維の基礎・基本となる知識や技術を修得するとともに，伝統の技や手作業による温かみのある品物の良さを再認識することができた。

図２　玉繭からの生糸の製糸

図３　卓上手機実習

第３学年では課題研究の中で自らテーマを設定し，創意工夫をしながらものづくりに励む。今年度は主に次のようなテーマに取り組んだ（表２）。組紐や手織り，草木染等，伝統的繊維技術を用いて様々なテキスタイル製品を作成した。試行錯誤を繰り返しながら，伝統技術の奥深さを認識し，そして，ようやく製品が完成したときには，大きな達成感が得られた。この課題研究を通して，伝統文化に対する関心を高め，理解を深めることができた。

表２　課題研究のテーマと概要

テーマ	概　要
さまざまな原料からの糸づくり ～ランチョンマットの製作～	綿花や原毛，ケナフなどを紡いで糸にし，手機を用いてランチョンマットを作成した。
組紐の制作　～組み方と柄だし～	丸台を用いてより複雑な組み方に挑戦した。
織物とコサージュのタペストリー	手機を用いて手織りのﾀﾍﾟｽﾄﾘｰを作成した。
浴衣　～春夏秋冬～	布を手染めし，浴衣を作成した。
組紐の強度分析と草木染からの組紐づくり	糸を草木染めし，組紐を作成した。
廃材手機で作った布	廃材を再利用して手機を作成し，それを使って実際に織物を試作した。

図４　手紡ぎ

図５　組紐

図６　手織り

図７　友禅染

図８　草木染

図９　廃材を再利用した手機

３－２　外部講師との連携

伝統的技法の体験を通して，生徒が歴史と伝統を正しく認識するには，長い経験や実績に裏付けされた技能や技術を有する専門家による指導が必要である。外部の専門家を招いて，教職員を対象に実技講習会を実施した。教える側の技能や熱意が，学ぶ側の意欲や理解度に大きく影響することから，まずは教員の技能向上を図ることとした。

（1）組紐の伝統技法講習

金沢市染織作家協会会員の東節子氏(きもの・くみひも学院代表）を講師に迎えて，八津の組み方「吊り糸八津組」,「八津組梅花」の技法を学んだ。

第１回　１２月　７日（木）午後１時～４時

第２回　１２月１２日（火）午後１時～４時

八つ組は四つ組より組目が細く，紐に柔らか味と弾力性があり，それゆえ実用的である。歴史は非常に古く，飛鳥時代にすでに組まれていた[2)]。八つ組は四つ組より玉数が多いため，難しそうに感じられたが，基本動作を繰り返すことで色彩豊かな組紐ができた時には感激した。何よりも先生の見事な手さばきに感動した。一朝一夕には得られない熟練の技には人の心を打つものがあり，これからも外部の専門家と連携しながら，生徒に巧みの技を見せて育てることが必要だと感じた。また，集中力や作業の丁寧さ，根気強さなど精神的な面が，ものづくりには大切であることを再認識することができた。

図１０　完成した組紐

図１１　組紐講習会１

図１２　組紐講習会２

（2）手織りの基礎・基本講習

高度な専門技能を有するテキスタイル工学科旧職員の伊藤義直氏を講師に迎えて，経糸の準備から綜絖通し，筬通しなど，手織りの基礎・基本を学びながら，センターピースを製作した。さらに,「綴織り」の技法や羊毛の手紡ぎの効果的な指導法についても学んだ。

第１回　１２月１８日（月）午後１時～４時

第２回　１２月１９日（火）午後１時～４時

綴織りの技法は，緯糸が織物の両耳まで通らず，図柄ごとに打ち込まれていく平織りの変形で，模様を織り出すのに最も適した手法である[3)]。長年に渡り生徒を指導してきたベテラン教師ならではの様々なアドバイスを受けることができた。初めて手織りを体験する初心者にも分かりやすく，丁寧に指導していただいた。今後もこのような優れた技能を有する専門家と連携しながら，実習内容がレベルアップするよう研鑽していきたい。

図１３　手織り講習会

図１４　完成した作品

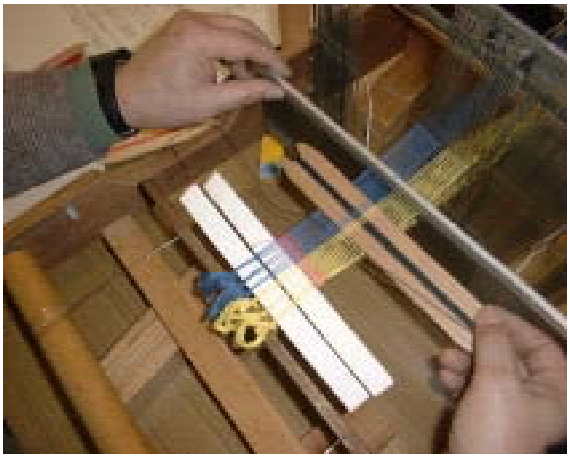

図１５　「綴織り」の技法

図１６　手紡ぎの指導

３－３　地域活動

地域の小・中学生や保護者を対象にした取り組み「県工ものづくりワールド」（平成１８年８月１９日実施）にて，「繊維の伝統文化に触れよう」のテーマで手機り体験，羊毛の手紡ぎ体験，組紐アクセサリーづくりを実施した。参加者から次のような感想が寄せられた。

〈参加した小学生の感想〉

県工ものづくりワールドに参加して楽しかったです。高校生のお兄さんやお姉さんはすごいと思いました。来年もぜひ参加したいと思いました。

〈指導に当たった在校生の感想〉

糸を使ってミサンガ（組紐）を作ったり，糸紡ぎの体験と機織りの体験を子供たちに体験させてあげました。たくさんの子供たちがミサンガを作っていて，自分で作るミサンガはとても大事になると思います。そして，繊維について少しでも興味を持ってくれるといいなと思いました。お母さん方も体験していて「おもしろい」と言ってくれて，うれしかったです。すばらしい経験ができました。

図１７　組紐体験

図１８　羊毛の手紡ぎ体験

4　成果と課題

（１）作業現場の見学では驚きと感動が生まれ，教室での学習では得られない効果があった。

（２）地域の小・中学生にものづくり体験を指導したことで，日頃の学習成果を実感するとともに，地域の人たちと交流を深めることができた。

（３）ものづくりの指導では手本を示してやることが望ましいが，伝統的技術を習得するには長い年月が掛かり容易なことではない。外部の専門家との連携や一流作品を鑑賞するなど，本物に触れる機会をいかに提供できるかが課題である。

5　今後の取り組み

（１）次年度は生徒を対象に外部講師による実技講習会を実施し，より実践的で効果的な指導法について研究する。

（２）地域活動として，「県工ものづくりワールド」の他に，「県民開放講座」を実施するなど伝統文化に触れる機会を広く提供したい。

6　参考資料

（１）『ふるさと石川』石川県教育委員会，東京書籍株式会社

（２）『美しい組紐』伝統的な日本の手工芸　長沼静著，泰流社

（３）『ハンドウィービング』手織りの実習　浜野義子･田中佳子･太作星乃･田中通子共著，文化出版局